

# 故郷懐かしみ交流

## 東京で在京田尻会の集い

第40回在京田尻会の集いが9日、東京都台東区で開かれ、首都圏在住の大崎市田尻地域出身者や伊藤康志市長ら同市関係者らが出席して交流し、故郷への思いを深めた。

集いには同会（佐藤星夫会長）会員や市議、

田尻地域の関係ら107人が出席。佐藤会長はあいさつで、9月に市田尻総合支所で開かれた「千手観音まつり」に役員らが参加したところなどを紹介し、「長く活動を続けていきたい」と述べた。

この後、事務局から

活動報告、会計決算の報告があり了承。県東京事務所の田村健副事務所長、「たじり穂波公社」の浅野志郎社長らが祝辞を述べた。

続いて開かれた懇親会では伊藤市長があいさつし、日本語学校開設の取り組みなど市の事業を紹介。同会顧問を務める三神祐司元市議会議長の音頭で乾杯した。

参加者は近況を語り合い、統合前の旧中学校の校歌を歌うなど故郷を懐かしんだ。また、みやぎ大崎観光公社副代表理事の早坂章太古川土地社長が、ふるさと納税返礼品のカタログを配布し、協力を呼び掛けた。

### 第40回 在京田尻会の集い



旧中学校の校歌を歌う卒業生

## 大崎・日本語学校を国認定

### 留学生地域の活力に

大崎市は30日、来年4月の開校を目指す「市立おおさき日本語学校」が同日付で文部科学省から日本語教育機関に認定されたと発表した。北海道東川町に次ぐ全国2例目、国が4月に施行した認定制度では、初の公立日本語学校となる。

(25面に関連記事)

市は2022年、県の開設方針に呼応し、推進室を設置して準備に着手。旧西

古川小学校舎をキャンパスに、初年度は3課程(1年、1年6カ月、2年)計60人の入学を想定し、5年後には100人を目指す。今年5月、国に申請した。

現在は県がベトナム、インドネシア、台湾に設置したキャリアサポートセンターを通して募集、選考と合わせて、校舎の改修や学生寮の整備を進めている。

伊藤康志市長は「多文化共生社会へこぎ出す船出の乗船券を手に入れた。地域の活力となる有為な留学生を招き入れ、交流を深めながら結実させたい」とコメント。村井嘉浩知事も「人手不足解消の切り札にもなる。外国人に選ばれる宮城となるよう取り組む」との談話を出した。

## 日本語学校22校初認定

### 文科省大崎など環境整備

文部科学省は30日、4月施行の日本語教育機関認定法に基づき、教育内容など一定の基準を満たした日本語学校22校を初めて認定した。留学生や就労者らに在留外国人の増加に伴うニーズの高まりを受け、国が日本語教育の質を担保し、環境整備を図るのが狙い。宮城

県大崎市や秋田県にかほ市など13都府県にある学校が対象で、同省ホームページで認定校の情報を海外に発信する。(18面に関連記事)

現在、在留資格「留学」の学生を受け入れ可能な日本語学校は、法務省告示で定められている。今後は審査が認定法に一本化されるため、留学生を受け入れるには経過措置の5年以内には認定を受ける必要がある。

認定校は毎年度、授業の実施状況などを文科省に報告する義務があり、運営が不適切と判断されれば是正命令の対象となる。

文科省によると、認定22校のうち新たに設立される春開校予定の学校は15校。認定法では日本語教員の国家資格も新設。第1回試験は11月17日に実施する。

# 古里への思い深める

## 東京「好きです三本木」が総会

大崎市三本木地域出身の首都圏在住者で組織する「好きです三本木」（村田仁会長）は9月21日、東京都台東区で第15回総会・懇親会を開き、古里への思いを深めた。

総会・交流会には40人ほどが出席。総会では会計決算が報告され、出席者が承認。来賓として出席した伊藤康志市長は「市内のさまざまなイベントに在京出身者の参加をいただいております、感謝している」と述べた。

このほか「おおさき宝大使」の版画家、大野隆司さんや、大崎市三本木振興公社の工藤光男代表取締役らがあいさつした。

懇親会は佐藤仁一郎市議が音頭をとり、三本木の地酒で乾杯。後藤錦信市議会議長、「好きです三本木」顧問の早坂竜太古川土地社長があいさつ。早坂社長は、この1年間に新聞

で取り上げられた市や三本木の記事を冊子にまとめ、出席者に配布した。

また、最後の三本木町長を務めた佐藤武一郎さんの孫、佐藤市議のおいで、シンガーソングライターとして活躍している遠藤清一郎さんも出席し、ギターで弾き語りを披露した。参加者は酒をくみ交わしながら思い出を語り合い、交流を深めていた。



都内で開かれた「好きです三本木」の総会

# 学生寮の工事着工

## 大崎市立日本語学校 関係者出席し安全祈願

来年4月開校予定の大崎市立「おおさき日本語学校」の学生寮工事安全祈願祭、着工式が26日、同市古川中里の現地で行われた。事業主の早坂章太古川土地社長や工事関係者、伊藤康志市長、村井嘉浩知事らが出席し、神事を行って事業の成功を祈った。工事は8月下旬ごろ本体建設に入り、来年3月に完成する。



くわ入れを行い工事の安全を祈る（左から）村井知事、早坂社長、伊藤市長、桜井充参院議員

## 来年3月の完成目指す



「おおさき日本語学校」学生寮完成予想図

で、3年目に90人、5年目に100人を予定。学生寮の工事は2期間に分けて行い、開校までの第1期工事では居室60室、第2期（2026年度）で同40室を整備する。

建物は軽量鉄骨造り2階。全室個室で、食堂、厨房、共用スペース、管理入室などを設ける。建設場所は、JR古川駅から歩いて10分ほどの旧古川東保育所跡地。敷地面積は3062平方メートル。

事業主は早坂社長個人で、30年間、市から土地の無償貸与を受け、家賃収入を得て管理、運営に当たる。法人による事業運営も検討しているという。設計、施工は積水ハウス、外構工事は古川土地がそれぞれ行う。

安全祈願祭、着工式には60人ほどが出席。神事を行って工事の無事を祈り、多文化共生の推進、外国人定住による人口増や労働力確保などに期待を寄せた。

伊藤市長は「多文化共生へ、地域住民も協力をお願いしたい」とあいさつ。村井知事は「公設第1号の」北海道東川町では外国人が残り、雇用や消費につながっている。大崎の例は全国でも注視されており、県も支えていきたい」と述べた。

早坂社長は「過疎化が想像以上に進んでおり、微力ながら地域に恩返しをしたいと参画した。しっかりと整備し、運営することを誓う」と決意を語っていた。

公設による日本語学校は国内2例目となる見込み。校舎は旧西古川小校舎を改修して活用。学生は学生寮で生活し、学校までJR陸羽東線を使って通学する。定員は開校時が60人

# 学生寮の工事着工

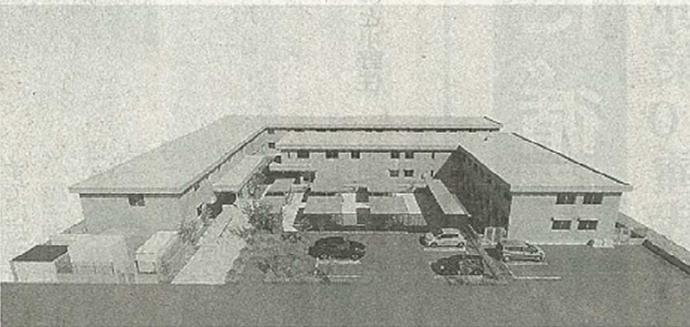
## 大崎市立 日本語学校 関係者出席し安全祈願

来年4月開校予定の大崎市立「おおさき日本語学校」の学生寮工事安全祈願祭、着工式が26日、同市古川中里の現地で行われた。事業主の早坂竜太古川土地社長や工事関係者、伊藤康志市長、村井嘉浩知事らが出席し、神事を行って事業の成功を祈った。工事は8月下旬ごろ本体建設に入り、来年3月に完成する。



くわ入れを行い工事の安全を祈る（左から）村井知事、早坂社長、伊藤市長、桜井充参院議員

## 来年3月の完成目指す



「おおさき日本語学校」学生寮完成予想図

公設による日本語学校は国内2例目となる見込み。校舎は旧西古川小校舎を改修して活用。学生は学生寮で生活し、学校までJR陸羽東線を使って通学する。定員は開校時が60人

で、3年目に90人、5年目に100人を予定。学生寮の工事は2期間に分けて行い、開校までの第1期工事で居室60室、第2期（2026年度）で同40室を整備する。

建物は軽量鉄骨造り2階。全室個室で、食堂、厨房、共用スペース、管理入室などを設ける。建設場所は、JR古川駅から歩いて10分ほどの旧古川東保育所跡地。敷地面積は3062平方メートル。

事業主は早坂社長個人で、30年間、市から土地の無償貸与を受け、家賃収入を得て管理、運営に当たる。法人による事業運営も検討しているという。設計、施工は積水ハウス。外構工事は古川土地がそれぞれ行う。

安全祈願祭、着工式には60人ほどが出席。神事を行って工事の無事を祈り、多文化共生の推進、外国人定住による人口増や労働力確保などに期待を寄せた。

伊藤市長は「多文化共生へ、地域住民も協力をお願いしたい」とあいさつ。村井知事は「（公設第1号の）北海道東川町では外国人が残り、雇用や消費につながっている。大崎の例は全国でも注視されており、県も支えたい」と述べた。

早坂社長は「過疎化が想像以上に進んでおり、微力ながら地域に恩返しをしたいと参画した。しっかり整備し、運営することを誓う」と決意を語っていた。

# 建築は積水ハウス、外構は古川土地

古川土地（早坂電太代表）と積水ハウス東北（櫻井直樹支店長）は26日、「大崎市立おおさき日本語学校学生寮」の安全祈願式・着工式を大崎市古川中里地区内の旧古川東保育所跡地で開催した。

25年3月に1期完成を目指す 大崎市で日本語学校学生寮着工

古川土地（早坂電太代表）と積水ハウス東北（櫻井直樹支店長）は26日、「大崎市立おおさき日本語学校学生寮」の安全祈願式・着工式を大崎市古川中里地区内の旧古川東保育所跡地で開催した。

民間の資金やノウハウを活用して留学生が入居できる学生寮の整備を計画。事業用地は大崎市古川中里5の71、72地内の市有地。面積は3062平方メートル。JR古川駅から約700メートル南西側で、徒歩約10分圏内とところ。土地は大崎市が事業者が無償で30年間貸し付ける。

施設は軽量S造2階建てで、1期整備棟は延床面積1624・16平方メートル、2期整備棟は延床面積963平方メートルで計画されている。学校開設時の定員は60人規模を想定しているが、最終的に100人規模までの拡大を目指しており、寮も最終的に100人規模で整備する。1期整備棟は居室60室のほか、管理入室や食堂・厨房・共用諸室などを整備。2期整備棟は居室40室、共用諸室を整備する。設備はWiFi設備、防犯カメラ、7台の駐車場と100台の駐輪場なども整備する計画だ。

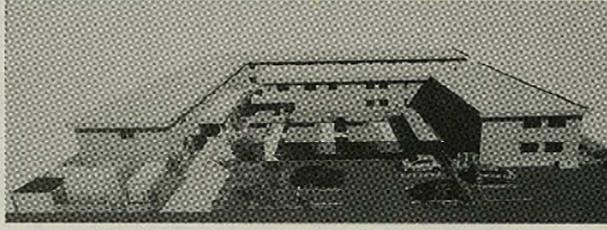
事業は2期に分けて実施し、第1期は2025年3月末の工事完了を目指す。2期工事は26年6月下旬ごろに着工し、27年3月末の完成を予定している。

式典には関係者約50人が出席。神事では積水ハウスの櫻井支店長が鎌入れ、古川土地の早坂代表、伊藤康志大崎市長、村井嘉浩宮城県知事、櫻井充参議院議員が鋤入れ、古川土地の南條聖一取締役建設事業部長、積水ハウスの佐藤忠副支店長が鋤入れを行い、工事の安全を祈った。

式典終了後、あいさつに立った早坂代表は「私も大崎で生まれ、育てていただいた。その恩返しの一環として学生が安心して学ぶための生活拠点を整備する。私のやるべきこととして強い使命感を持って事業を提案した」と力を込めた。

続けて伊藤市長は建設地が保育所跡地であることに触れ「公共施設が統廃合した時、跡地活用が課題となった。この場所を活用いただき、古川中里の地に活力を与えていただき感謝する」とあいさつした。村井知事は「日本語学校は県内のみならず、国内のさまざまな地域が注目しているので事業成功に向けて県として支援を進めていく」と大崎地域の活性化に期待を寄せた。

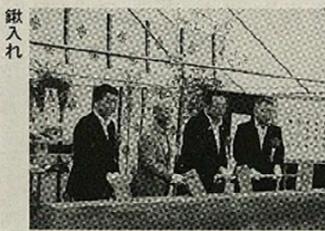
積水ハウスの増井利幸現場代理人の話  
事業主の早坂様に熱い思いに答えるため、安全・安心な建物をつくり、生活される学生に快適に過ごしてもらいたい。工事中は住宅地で小学校への通学路ともなっているため、第三者災害には特に注意を払いたい。



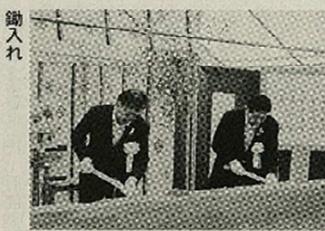
完成パース



鎌入れ



鋤入れ



鋤入れ

民間の資金やノウハウを活用して留学生が入居できる学生寮の整備を計画。事業用地は大崎市古川中里5の71、72地内の市有地。面積は3062平方メートル。JR古川駅から約700メートル南西側で、徒歩約10分圏内とところ。土地は大崎市が事業者が無償で30年間貸し付ける。

施設は軽量S造2階建てで、1期整備棟は延床面積1624・16平方メートル、2期整備棟は延床面積963平方メートルで計画されている。学校開設時の定員は60人規模を想定しているが、最終的に100人規模までの拡大を目指しており、寮も最終的に100人規模で整備する。1期整備棟は居室60室のほか、管理入室や食堂・厨房・共用諸室などを整備。2期整備棟は居室40室、共用諸室を整備する。設備はWiFi設備、防犯カメラ、7台の駐車場と100台の駐輪場なども整備する計画だ。

事業は2期に分けて実施し、第1期は2025年3月末の工事完了を目指す。2期工事は26年6月下旬ごろに着工し、27年3月末の完成を予定している。

式典には関係者約50人が出席。神事では積水ハウスの櫻井支店長が鎌入れ、古川土地の早坂代表、伊藤康志大崎市長、村井嘉浩宮城県知事、櫻井充参議院議員が鋤入れ、古川土地の南條聖一取締役建設事業部長、積水ハウスの佐藤忠副支店長が鋤入れを行い、工事の安全を祈った。

式典終了後、あいさつに立った早坂代表は「私も大崎で生まれ、育てていただいた。その恩返しの一環として学生が安心して学ぶための生活拠点を整備する。私のやるべきこととして強い使命感を持って事業を提案した」と力を込めた。

続けて伊藤市長は建設地が保育所跡地であることに触れ「公共施設が統廃合した時、跡地活用が課題となった。この場所を活用いただき、古川中里の地に活力を与えていただき感謝する」とあいさつした。村井知事は「日本語学校は県内のみならず、国内のさまざまな地域が注目しているので事業成功に向けて県として支援を進めていく」と大崎地域の活性化に期待を寄せた。

積水ハウスの増井利幸現場代理人の話  
事業主の早坂様に熱い思いに答えるため、安全・安心な建物をつくり、生活される学生に快適に過ごしてもらいたい。工事中は住宅地で小学校への通学路ともなっているため、第三者災害には特に注意を払いたい。

日本語学校開校向け  
大崎で学生寮着工式  
県内で働く外国人材向け  
に大崎市が来年4月の開校  
を目指している日本語学校

について、学生寮の着工式が26日に行われ、関係者らが工事の安全を祈願した。公設日本語学校は全国2例目となる見込みで、労働力不足を解消するために外国人を呼び込む施策で重要な役割を担う。

学生寮は、旧西古川小（大崎市古川保柳）の校舎を活用する「市立おおさき日本語学校」に電車と徒歩で約30分の市有地（同市古川中里）に整備される。2階建て（延べ床面積2587平方メートル）の全個室で100人が入居できる。

学生寮の建設と運営を担う「古川土地」の早坂竜太社長が個人で建設費を負担し、家賃収入などを得て運営を行う。大崎市としては、外国人材を受け入れる拠点を作ることと交流人口の拡大につながる狙いがある。

式典には約60人が参加。早坂社長は「大崎に生まれた者としての恩返しだ」と話し、村井知事は「大崎への学生の定住にもつながる」と期待を寄せた。



くわ入れをする村井知事(左)ら(26日、大崎市で)

# 日本語学校 学生寮着工

## 大崎 来春開校 最大100人入居

大崎市が2025年4月の開校を計画する「おおさき日本語学校」の学生寮の着工式が26日、同市古川中

里5丁目の建設予定地であった。民間事業者が市有地を無償で30年間借り受け、8月～25年3月末の第1期工事で個室60室、27年3月末には40室を整備し、最大100人の留学生が入居する寮の運営と維持管理にも当たる。

古川東保育所跡地と隣接地の計3062平方メートルに、

軽量鉄骨造2階、延べ床面積計2587平方メートルの2棟を整備する。同市の建設不



事業者の早坂氏(左から2人目)らがくわ入れして工事の安全を祈った

動産業「古川土地」の早坂章太社長個人が土地を借り受け、自己資金と家賃収入で建設から運営まで賄う。

協力事業者の積水ハウスが設計と建設、古川土地が外構工事を担い、寮運営はノウハウを持つ大手事業者との連携を検討している。建設費は計十数億円で、30年間の総事業費は20億円を超えると思われる。

式には関係者約60人が出席。早坂氏は「日本語学校は過疎化の中でピンチをチャンスに変える取り組み。誰かがやらなければならぬ」と使命感を持って提案した。地元への恩返しとして「しっかり運営する」と語った。

伊藤康志市長は「勇気を持って引き受けてもらった。学校と寮を拠点に多文化共生社会をつくりたい」と述べ、村井嘉彦知事は「日本語学校は私がお願いして始まった。必ず成功させなければならぬ。しっかりサポートするので安心してほしい」と強調した。

早坂竜太氏

1期分はS2F延べ1624㎡、60室

# 積水ハウスの設計・施工

## 大崎市 日本語学校の学生寮

大崎市が開設する日本語学校をめぐり、早坂竜太氏（古川土地代表取締役）が事業者となる学生寮は積水ハウスが設計・施工を担当する。外構は古川土地が施工。26日には安全祈願祭・着式を行う。施設完成後は3者が連携して維持管理・運営、メンテナンスに

当たる。大崎市は、古川地区に開設する日本語学校に付属して、民間の資金やノウハウを活用し留学生が入居できる学生寮を計画。建設用地は古川中里5の71、72地内の市有地。旧古川東保育所があった場所で、面積は3062平方メートル。JR古川駅

月末の工事完了を目指す。第2期は26年6月下旬にも着工し、27年3月末の完成を予定している。施設は軽量S造2階建てで、1期整備棟は延べ1624平方メートル、2期整備棟は延べ963平方メートルで計画。学校開設時の定員は60人を

想定しているが、最終的に100人規模までの拡大を目指すとしているため、寮も2期合計で100人規模を整備する。1期整備棟は居室60室のほか、管理人室や食堂・厨房、共用諸室などを設ける。2期整備棟は居室40室と共

用諸室を確保する。設備はWiFi設備、防犯カメラ、7台の駐車場、1000台の駐輪場なども整備する。事業者の早坂氏は、ピンチをチャンスに変える市の前向きな取り組み姿勢に対し、「地域への社会的責任を果たすため、本業の強みやノウハウを通じて課題解決に協力したい」と話す。

学生寮は「交流」「安全」「歴史」「自然」の4つをテーマに掲げ、留学生が長く住み続けたいくなる住環境を整備する。空間デザインの特徴は、留学生の交流促進を目的に、複数の居室ごと大崎市内の地名を冠したりリビングを配置し、柔軟に活用できる工夫を凝らす。また寮生活を行う学生には、地域のお祭りなどさまざまなイベントへの参加や体験学習なども計画されている。なお日本語学校は、古川保柳氏子地内にある旧西古川小学校を改修して整備し、25年4月開校を目指す。



の約700平方メートル。東西側で、徒歩約10分圏内のところ。土地は市が事業者が無償で30年間貸し付け

る。事業は2期に分けて実施し、第1期は2025年3

# 日本語学校の概要説明

## 大崎市 寮の建設地区対象に

来年4月開校予定の大崎市立おおさき日本語学校および留学生寮に関する説明会が6日、大崎市古川中里の集会施設で開かれた。寮が整備される中里、駅南地区で一般住民を対象に開催するのは初めてで、市が学校、寮の概要を説明。出席者からは、留学生の選抜方法や来日時の日本語の能力などについて質問があり、治安に対する不安の声も聞かれた。

### 学生選抜、治安など質問



中里、駅南地区住民を対象に開かれた説明会（昼の部）

公設公営の日本語学校は全国で2例目。多文化共生、交流人口の増加、市内企業の就業者拡大などを目的に、旧西古川小学校舎を改修して開校。留学生の寮を民設民営で古川中里に建設する。

説明会には昼、夜合わせ30人ほどが出席。鈴木俊光校長、日本語学校推進室の茂和泉浩昭室長らが学校、寮の概要を説明した。

学校は全寮制とし、留学生定員は初年度が60人。ベトナム、インドネシア、台湾から受け入れる。5年目には100人を目標としている。

留学生は寮で自炊し、JR陸羽東線で通学する。寮に管理人を置き、24時間体制で学生を支援。8月上旬から寮の工事に入る。

質疑では留学生の選抜方法、入国時の日本語のレベルなどについて質問があり、市は県のキャリアサポートセンターを通し募集する。日本語能力ゼロの人は受け入れない」と説明。

また「夜間の治安が不安」「メンタル面をサポートする養護教員が必要」といった意見があり、市は「寮に門

限を設け、外泊は届けを出させ、管理する」「養護教員の配置は定めがないが、職員などには留学生出身国の言葉ができる人もおり対応する」と答えた。

このほか「留学生がやって来るのは不安」「納税者視点の事業ではない」といった声があった。

# M S O 総会で解散決議

## 残余財産 大崎市に譲渡

NPO法人「未来産業創造おおさき」(MSO) (石ヶ森信幸理事長)の通常総会が28日、大崎市土川のグラウンド平成で開かれ、解散を決議した。MSOは決議を受けて清算手続きに入り、清算終了登記は8月ごろになる見込み。

### 事業は産業推進機構へ

MSOを解散する方針は、一般社団法人「おおさき産業推進機構」の発足に伴うもので、3月26日の臨時総会で決議していた。このほか、大崎ものづくりネットワーク協議会は3

月、大崎市工業会は4月にそれぞれ解散。3団体が行ってきた事業は、4月1日に実質的に活動を開始した「おおさき産業推進機構」が引き継ぎ、産業振興支援を機構に一本化し

て行う。総会には委任状などを含め、正会員61社のうち56社が出席。法人の解散、清算人を石ヶ森理事長とする議案など4議案を全員の賛成で可決した。

石ヶ森理事長はあいさつで「(三つの組織が)歴史に幕を下ろし、次の時代をつくる方向にかじを取った。技術革新や産業横断的な取り組みが進む中、地域の支援機能を高める意義は大きい」と述べ、おおさき産業推進機構の活動に期待を込めた。

また、残余財産は定款の定めで大崎市へ譲渡し、その額は約2300万円の見込みであることも示された。



解散の議案に挙手し賛成する会員

# 学生寮 民設民営で建設

大崎市立 日本語学校 優先交渉権者に早坂氏  
古川土地 社長

大崎市は、来年4月

開校予定の市立日本語

学校の学生寮を旧古川

東保育所跡地（同市古

川中里）に民設民営で

整備する計画で、公募

型プロポーザルの結

果、古川土地の早坂竜

太社長を優先交渉権者

に選定した。市は今月

中に早坂氏と基本協定

を結んだ後、6月上旬

ごろに本契約し、建設

に入る。

早坂氏は古川土地と

協力事業社1社の3者

共同で提案した。プロ

ポーザルに選じたのは

早坂氏のみで、3月下

旬に開いた審査委員会

で優先交渉権者に選ん

だ。

市が保育所跡地30

62平方メートルを無償で30

年間貸与。早坂氏は開

校までに60人分の学生

寮（軽量鉄骨2階建て）

を自己資金で建設し、

家賃収入を得て管理、

運営に当たる。市は早

坂氏に家賃保証を行

い、学生に対しては家

賃の一部を支援する予

定。

日本語学校は定員60

人で開校し、3年目に

90人、5年目に100

人を目指す計画で、定

員増に合わせ学生寮を

40人分追加し整備する。

市は直接建設する方

法や借り上げなども検

討したが、完成までの

スピードや運営面で民

設民営方式が有利と判

断し、採用した。

早坂氏は「難しい事

業だが、少しでも人口

.....

日本語学校の学生寮が

建設される旧古川東保

育所跡



減少対策につながれば  
と提案した。学生に大  
崎のファンになっても  
らい、関係人口の増加  
につなげたい」と語っ  
ている。

## 大崎市立日本語学校

### 学生寮の事業者

### 早坂氏に決定へ

大崎市は9日、2025年4月開校を目指す「おおさき日本語学校」の学生寮を整備する事業者を公募した結果、優先交渉権者に建設不動産業の古川土地（大崎市）の早坂竜太社長を選定したと発表した。月内にも事業者に決定し、6月の本契約を経て建設に入る。

市が同市古川中里の保育所跡地を含む市有地3062㎡を学生寮用に30年間無償で貸し付け、事業者は自己資金と家賃収入で建設や維持管理、運営に当たる。来年3月までに学生60人分

を整備し、開校後に40人分を追加で建設する方針。

公募型プロポーザルには早坂氏のみが応募。古川土地と協力事業者1社の計3者による共同提案で、有識者を交えた審査委員会が3月に最優秀提案に選んだ。

早坂氏は取材に「少子高齢化を見据えた中長期的な対策として市が打ちだした施策。事業のハードルは高いが、誰かがやらねばならないと手を挙げた。関係人口増加に何らかのお手伝いがしたい」と語った。

## 日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shimbun

4月10日水曜日

2024年第11942号

発行所  
日本建設新聞社  
仙台市青葉区上杉1-6-10  
電話022-221-9211  
FAX022-216-1051

## 早坂氏（古川土地）を特定

## 大崎市 日本語学校の寮整備

日本語学校に係る学生寮の整備について、事業者の選定を進めてきた大崎市は9日、県内で不動産・建設事業を営む早坂章太氏（大崎市・古川土地代表取締役）を優先交渉権者に特定したと発表

と連携して学生寮の設計・施工と維持管理を行う。大崎市が事業者選定の手続きを進めていたのは「仮称・日本語学校学生寮整備事業」の公募型プロ

ポーサル。個人・法人を対象に2月から事業者を公募し、3月下旬にプレゼンテーションなどの審査を行った。早坂氏は会社経営者であるものの、プロポー

サルには個人として参加した。応募は同氏のみだった。審査委員会では早坂氏の企画提案を審査したところ、学生相互の交流を生み出す空間デザインとして、ひとまとまりの居室ごとに複数のリビングを配置するなどの工夫が高く評価された。また、寮生活を通して地域と交流するプログラムや、職場体験、自然体験などを行う提案も盛り込まれた。

本協定を結び、6月上旬をめどに本事業に関する契約を締結する。設計・施工に関する事業費を早坂氏が負担する代わりに、市は旧古川東保育所の敷地約3000㎡を30年間無償で貸与する。その間に、早坂氏は建物の維持管理を行いながら、家賃収入などの事業収益を上げていく。

学生寮は2階建てとし、定員100人を想定している。整備期間を1期と2期に分け、前半の1期

事業で単身用58室、夫婦用2室、管理入室などを2025年3月31日まで整備する。翌4月1日から入居できる状態にする。

後半の2期事業では、単身用40室、共用の諸室・設備などを27年3月31日までに整備する。

これらの設計・施工および建設後の維持管理について、早坂氏が総合プロフェッショナルな立場に立つて取引企業らと連携し、事業を推進していくものと見られる。

大崎市は留学生の受け入れによって地域の活性化を目指す、全国で2例目となる公立の日本語学校を25年4月に設立する。学校施設は旧西古川小学校の校舎などを再利用することとし、村田工務所（大崎市）らが改修工事を行っている。

## 早坂氏と優先交渉

大崎市

古川中里に  
1000人規模

### 日本語学校学生寮の整備

大崎市は公募型プロポーザルで手続きを進めていた（仮称）大崎市立日本語学校学生寮整備」について、早坂竜太氏を優先交渉者に決定した。応募者は同氏のみだった。

同市では、古川地区に開設する日本語学校に付属して、民間の資金やノウハウ

を活用して留学生が入居できる学生寮を整備する。今回の募集は整備に係る設計、建設、維持管理を請け負う。

事業用地は2018年度まで古川東保育所の敷地として利用していた大崎市古川中里5の71、72地内の市有地で面積は約3000平

方計。JR古川駅から約700m南西側で、徒歩約10分圏内のところ。土地は大崎市が事業者が無償で30年間貸し付ける。

施設は2階建てで、構造・面積は事業者の提案によるものとする。学校開設時の定員は60人規模だが、最終的に100人規模までの拡大を目指しており、寮はその人数に応じた100人規模で整備する。施設内は学生用居室、管理人室および居室、共用諸室などを整備し、WiFi設備、防犯カメラ、4台程度駐車可能な駐車場なども完備する計画。

設備、外構を整備する。第2期は26年4月以降から居室を単身用40室、共用諸室（食堂および厨房除く）、共用設備を整備する。最終事業期限は27年3月31日まで。

日本語学校は市が旧西古川小学校を改修し使用する。昨年12月に施工者選定の入札を執行し落札者が決定した。工事は3分離で発注。建築は村田工務所、電気は伸晃電設工業、機械は仙北設備工事がそれぞれ担当する。工期は4月30日まで。

# 故郷への思い深める

## 首都圏大崎連絡協が総会

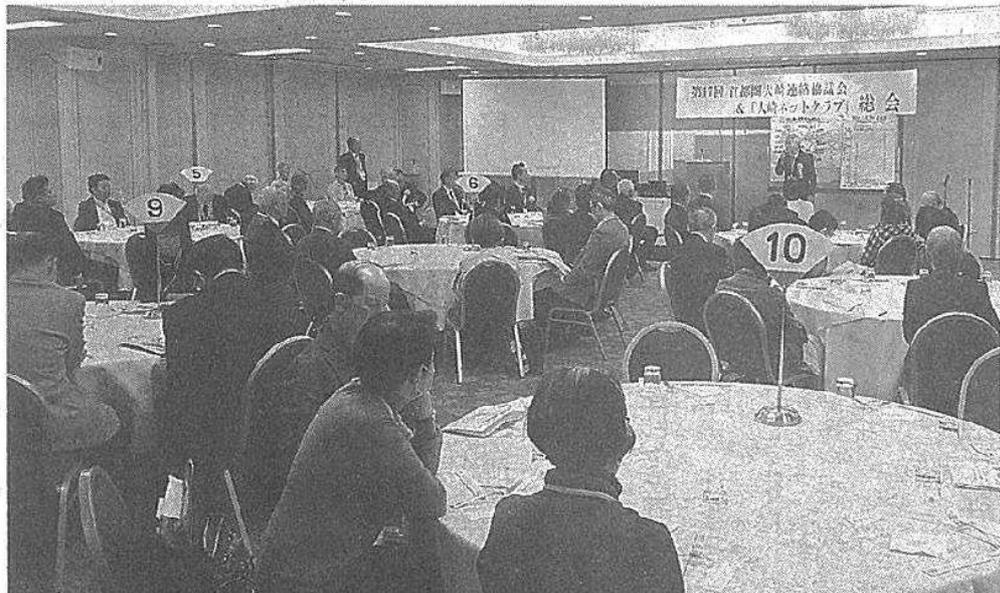
首都圏大崎連絡協議会（草刈文幸会長）と大崎ネットクラブ（同）の第17回総会が3月23日、東京都台東区で開かれ、大崎市出身の首都圏在住者らが故郷への思いを深め、ふるさとへの支援を続けていくことを確認し合った。

同協議会は大崎市古川や三本木など各地域出身者による首都圏団体

の連合組織。ネットクラブは同市以外の近隣出身者や、大崎市と関わりの深い首都圏在住者らで結成する組織。総会には約70人。最初に草刈会長があいさつ。草刈会長は「俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会」の理事を務め、昨年、登録

へ向け機運を高めようと、俳句大会を大崎地方で開いた経緯を紹介し、「俳句に親しみながら大崎を巡るなど、ふるさとを応援していきたい」と語った。また来賓として出席した伊藤康志市長は市役所新庁舎建設や中心市街地再開発のほか、日本語学校開設など市の新たな取り組みを紹介。その後、決算報告を承認し、健康づくり

をテーマに講話を聞いた。続いて懇親会が開かれ、大崎の地酒で乾杯。宮城おおさき観光公社の副代表理事を務める早坂竜太古川土地社長は、インターネットに不慣れでもふるさと納税ができるよう、申し込み書類や返礼品のリストを配り、大崎市発展へ協力を求めた。



都内で開かれた首都圏大崎連絡協議会と大崎ネットクラブの総会

# 当選者111人決まる

## 古川商議所 グルメキャンペーン

古川商工会議所専門サービス業部会（早坂章太郎会長）が主催する「2024新春運だめしグルメキャンペーン」の抽選会が7日、同会議所で行われ、村田秀彦会頭らが特賞から3等まで111人の当選者を決めた。

特賞は仙台牛など話め合わせ（1万5000円相当）。1等は参加店で利用できる共通金券1万円分、2等は同5000円分、3等は同2000円分。金券の有効期間は2月15日から3月10日まで。

早坂部会長は「これを機会に地元の飲食店へ足を運ぶ機会を増やしてもらい、地産地消の推進にもつながれば」と期待していた。特賞賞品は今月中旬ごろ、金券は13、14日ごろ当選者に届けられる見込み。

抽選が行ったのは村田会頭や早坂部会長ら関係者5人。応募はがきが入った抽選箱（QRコードからの応募者は事務局ではがきに記入）から村田会頭が特賞当選者1人を抽選した後、1等、2等（各当選者5人）は5人が1枚ずつ、3等（当選者100人）は20枚ずつ引いた。

キャンペーンは1月1日から31日まで、飲食店57店舗で実施。キャンペーン参加店で飲食し、会計の際、QRコードやはがきに氏名などを記入し応募する。同種の事業は12回目、今回の応募数は2448通だった。

抽選を行ったのは村田会頭や早坂部会長ら関係者5人。応募はがきが入った抽選箱（QRコードからの応募者は事務局ではがきに記入）から村田会頭が特賞当選者1人を抽選した後、1等、2等（各当選者5人）は5人が1枚ずつ、3等（当選者100人）は20枚ずつ引いた。



抽選を行う村田会頭（中央）、早坂部会長（左から2人目）ら

大 崎 市

古川中里に1000人規模の学生寮を整備

# 提案書提出は3月4～5日

## 日本語学校学生寮の整備事業者

大崎市は（仮称）大崎市立日本語学校学生寮整備」に向けた事業者募集へ公募型プロポーザルで手続きを開始した。

質疑は今年14日まで、提案書等の提出は3月4日と5日の2日間。3月下旬のプレゼンおよびヒアリング、4月上旬の審査結果通知予定としている。応募資格は個人または法人などとしている。

同市では、古川地区に開設する日本語学校に付属して、民間の資金やノウハウを活用して留学生が入居できる学生寮の整備する。今回の募集は整備に係る設計、建設、維持管理を請け負う。

事業用地は2018年度



まで古川東保育所の敷地として利用していた大崎市古川中里5の71、72地内の市有地で面積は約3000平方メートル。JR古川駅から約700メートル南西側で、徒歩約10分圏内のところ。土地は大崎市が事業者が無償で30年間貸し付ける。

施設は2階建てで、構造・面積は事業者の提案によるものとする。学校開設時の定員は約60人としているが、100人までの拡大を目指すとしており、学生寮もその人数に応じた100人規模で整備する。施設内は学生用居室、管理人室および居室、共用諸室などを整備し、WiFi設備、防犯カメラ、4台程度駐車可能な駐車場なども完備する計画。

事業期間は2期に分けて整備するものとし、第1期の事業期間は契約締結から25年3月31日まで。25年4月1日から入居開始ができるよう、単身用

58室と夫婦用2室、管理人室および居室、共用諸室、共用設備、外構を整備する。第2期は26年4月以降から居室を単身用40室、共用諸室（食堂および厨房除く）、共用設備を整備する。最終事業期限は27年3月31日。

日本語学校は市が旧西古川小学校を改修し使用する。昨年12月に施工者選定へ開札し落札者が決定。建築は村田工務所、電気は伸晃電設工業、機械は仙北設備工事がそれぞれ担当する。工期は4月30日まで。